

# 2022 年度コンピテンシー・マイルストーン到達度調査 報告書

2023 年 3 月 8 日

医学部 IR 室

## 1. 調査概要

### 1-1. 調査目的

本学医学部学生の学修成果（コンピテンシー・マイルストーン到達度）に関する実態を調査することを目的とした。

### 1-2. 調査項目

調査項目は、本学のコンピテンシー・マイルストーン（2 年次修了時、4 年次臨床実習開始前、卒業時）の各レベルの到達度について、学生が自己評価を行った。

### 1-3. 調査対象

2022 年度医学部 1～5 年生 593 名を対象とした。

### 1-4. 調査方法

4 年次においては 2022 年 10 月 7 日、5 学年次においては 2022 年 9 月 30 日、1～3 学年次においては 2023 年 2 月 1 日～28 日において、Web(AIDLE-K)による記名式の調査を実施した。

### 1-5. 回答者数と回収率

2022 年度 1 年生から 5 年生まで 441 名が回答した（回収率 74.4%）。内訳は、1 年生が 87 名（回収率 63.5%）、2 年生が 98 名（回収率 82.4%）、3 年生が 49 名（回収率 45.4%）、4 年生が 103 名（回収率 89.6%）、5 年生 104 名（回収率 91.2%）であった。

## 2. 結果

コンピテンシー・マイルストーンは、2 年次レベル、4 年次臨床実習開始前レベルで設定されている。そこで、2 年次、4 年次において、レベル未達成の割合が低いものから順に抽出した（表 1）。表 1 に該当する未達成割合 30%以上のマイルトーンを別紙にて色分けで示した。

表 1. 2 学年次および 4 学年次のマイルストーン未達成割合 (%)

2 学年次		4 学年次	
<b>A34</b>	51.0	<b>A35</b>	58.3
<b>A35</b>	37.8	<b>A47</b>	58.3
A33	35.7	A21	53.4
<b>A43</b>	31.6	<b>A44</b>	51.5
<b>A39</b>	27.6	<b>A43</b>	50.5
<b>A44</b>	27.6	A 4	49.5
<b>A47</b>	27.6	A22	48.5
A40	23.5	A45	47.6
		A38	47.6
		A36	46.6
		<b>A34</b>	43.7
		<b>A39</b>	43.7
		A24	42.7
		A25	42.7
		A15	42.7
		A46	40.8
		A37	40.8

2 学年次のマイルストーンの未達成割合が 30%以上の項目は以下 4 つである。

#### IV. 診療技能

33. 身体診察と基本的臨床手技を適切に実施できる。

(2 年次のマイルストーン)

身体診察と基本的臨床手技の概略を説明できる。

34. 診療録を SOAP 形式で、客観的、かつ簡潔に記載し、プロブレムリスト、鑑別診断を作成できる。

(2 年次のマイルストーン)

診療録における POS (Problem Oriented System) の概略を述べることができる。

35. 適切な検査を選択し、結果を正しく解釈できる。

(2 年次のマイルストーン)

日常診療でよく用いられる検査の原理や手技の概要を説明できる。

## V. 地域社会への貢献

43. 医療計画，地域医療構想について説明できる。

(2 学年次マイルストーン)

医療行政の重要性を説明できる。

4 学年次のマイルストーンの未達成割合が 50%以上の項目は以下 5 つである。

## II. コミュニケーション

21. 様々な ICT (Information and Communication Technology) を適切に選択し，活用できる。

(4 学年次マイルストーン)

病態・検査・治療を ICT を活用しながら説明できる。

## IV. 診療技能

35. 適切な検査を選択し，結果を正しく解釈できる。

(4 学年次マイルストーン)

主要な疾患について診断に必要な検査を選択し，その感度、特異度を踏まえて、検査結果を正しく解釈することができる。

## V. 地域社会への貢献

43. 医療計画，地域医療構想について説明できる。

(4 学年次マイルストーン)

わが国における医療計画として、地域医療の効率化、体系化の意義を概説できる。(医療法第 30 条)

44. 住民啓発活動や一次医療の診療補助により地域医療に参加ができる。

(4 学年次マイルストーン)

地域医療における住民啓発活動や一次診療の具体的内容を説明できる。

47. 国際社会の健康問題を把握，説明することができ，可能な範囲でその問題に対処できる。

(4 学年次マイルストーン)

我が国のみならずアメリカ、ヨーロッパ諸国、アジア諸国のヘルスケアの様々なあり方について概説できる。

### 3. まとめ

コンピテンシー・マイルストーン調査を各学年次で行い、マイルストーンの到達度が低い項目を抽出した。

2 学年次においては、マイルストーンの未達成割合は 50%以上が 1 項目、30%以上が 4 項目該当した。「IV. 診療技能」および「V. 地域社会への貢献」におけるマイルストーンにおいて、未達成割合が多かった。1、2 学年次においては、早期体験実習（シミュレーション実習・コミュニケーション実習、看護体験実習、診療科見学実習）、地域社会医学実習、チーム医療実習、外来案内実習が開講されており、これらの低学年次の実習を通して診療技能の 2 学年次のマイルストーンの達成割合が上昇することが期待される。

4 学年次においては、マイルストーンの未到達割合は 50%以上が 5 項目、40%代が 12 項目該当した。「IV. 診療技能」および「V. 地域社会への貢献」におけるマイルストーンにおいて、未達成割合が多かった。2 学年次の地域社会医学実習、3 学年次の地域包括ケア実習、4 学年次の地域医療早期体験実習、4 学年次の地域医療総合医学などの実習や講義などを通して、これらの 4 学年次のマイルストーンの達成割合が上昇することが期待される。

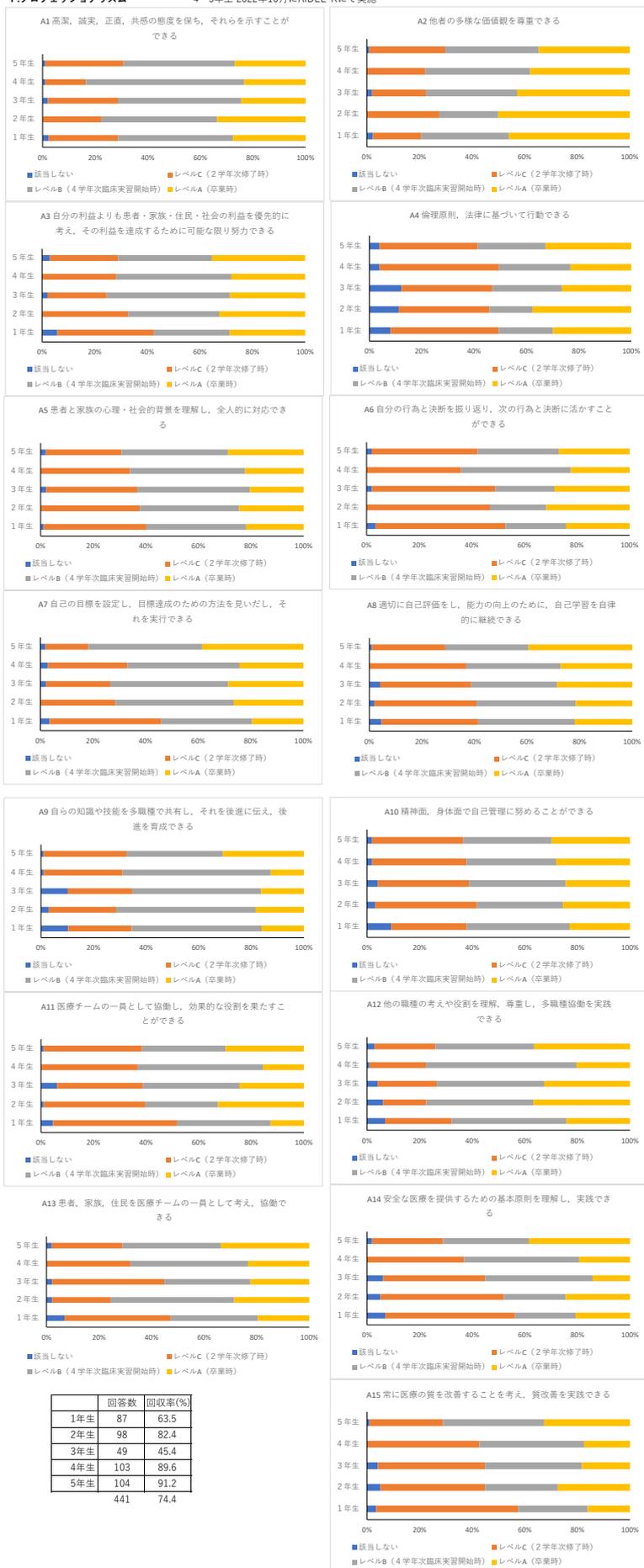
特に 4 学年次においては、マイルストーン未達成割合が 50%以上の項目が 5 項目該当し、40%代の項目が 12 項目該当した。学生の半数が未達成である項目については、今後マイルストーンの見直しなどを行い、学生の現状に沿ったマイルストーンへの変更を視野において議論する必要があることが示唆された。

未達成割合50%以上
未達成割合40-49%
未達成割合30-39%

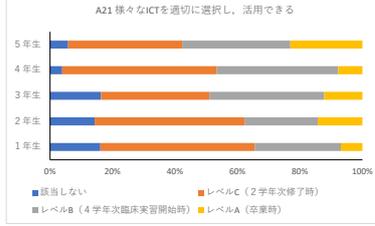
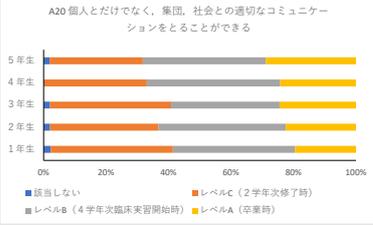
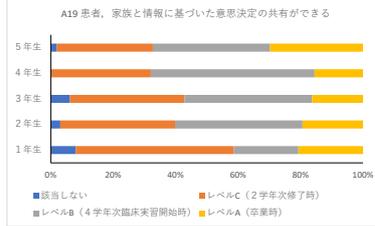
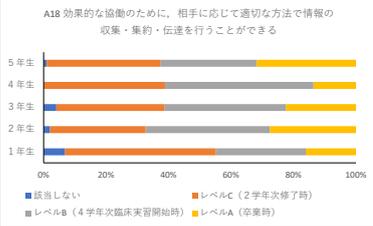
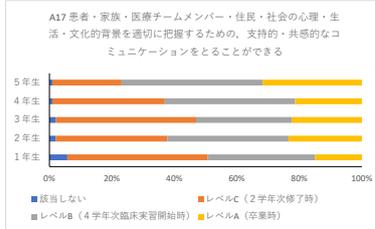
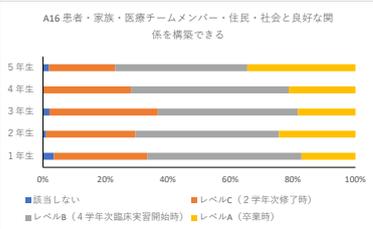
### 卒業時コンピテンシーマイルストーン

			a	b	c
			レベルA(卒業時)	レベルB(4学年次臨床実習開始時)	レベルC(2学年次修了時)
I プロ フェ ッ シ ョ ナ リ ズ ム	1	1	高潔、誠実、正直、共感の態度を保ち、それらを示すことができる(人間性)。	誠実、正直の態度を意識して行動することができる。	医療従事者に求められる態度について議論し、自分の考えを説明することができる。
	2	2	他者の多様な価値観を尊重できる(価値観の尊重)。	患者・家族の価値観の違いにより、望む医療が異なることを説明できる。	多様な価値観*の在り方について思いを致すことができる。(*特に人生と生活の困難への対応に関する価値観)
	3	3	自分の利益よりも患者・家族・住民・社会の利益を優先的に考え、その利益を達成するために可能な限り努力できる(利他主義)。	医療者が自分の利益よりも患者・家族・住民・社会の利益を優先的に考えることの重要性を説明できる。	特定のおかれた状況において、患者・家族・住民・社会の利益とは何かを考えることができる。
	4	4	倫理原則、法律に基づいて行動できる(倫理的・法的理解)。	4原則以外の倫理原則や医療にかかわる主な法律について事例に基づき議論できる。	基本的な倫理の4原則(自立尊重原則、無危害原則、善行原則、正義原則)を説明できる。
	5	5	患者と家族の心理・社会的背景を理解し、全人的に対応できる(全人的対応)。	患者と家族の心理・社会的背景を理解して基本的な行動ができる。	患者と家族の心理・社会的背景を理解することの重要性を説明できる。
	6	6	自分の行為と決断を振り返り、次の行為と決断に活かすことができる(省察の実践)。	省察の実践の重要性について議論できる。(行為の中の省察、行為に基づく省察、行為のための省察)	自分の行為を振り返ることの重要性を説明することができる。
	7	7	自己の目標を設定し、目標達成のための方法を見だし、それを実行できる。(目標設定)	自己の目的設定を意識し、その適切性や達成のためのアプローチを検討できる。	短期的な自己の目標の設定ができる。
	8	8	適切に自己評価をし、能力の向上のために、自己学習を自律的に継続できる(自己学習)。	自己学習の成果を自己評価し、改善を図ることができる。	医師になってからの自己学習の重要性を説明できる。
	9	9	自らの知識や技能を多職種で共有し、それを後進に伝え、後進を育成できる(教育的態度)。	学んだことを多職種で共有し、次の世代に伝えることの重要性を説明できる。	教育的態度が基本的臨床能力であることを説明できる。
	10	10	精神面、身体面で自己管理に努めることができる。(自己管理)	自己管理能力を高めるために必要なことを説明することができる(目標、予定、記録)。	学生生活において精神面、身体面の自己管理ができる(健康、時間、感情・モチベーション)。
	11	11	医療チームの一員として協働し、効果的な役割を果たすことができる。(チーム医療)	チームの一員として多職種で問題を考察できる	医療チームは多職種からなり、チームで医療を展開することの重要性を説明できる。
	12	12	他の職種の考えや役割を理解、尊重し、多職種協働を実践できる(多職種協働)。	医師として、他の職種と協働することの意義を論じることができる。	他の職種の仕事内容、役割を説明できる。
	13	13	患者、家族、住民を医療チームの一員として考え、協働できる。(患者中心の医療)	患者、家族、住民を医療チームの一員として考えることの重要性を説明できる。	患者、家族、住民が医療チームの一員であることを説明できる。
	14	14	安全な医療を提供するための基本原則を理解し、実践できる。(患者安全)	医療における安全管理の基本原則を説明できる。	医療安全の重要性を説明できる。
	15	15	常に医療の質を改善することを考え、質改善を実践できる。(生涯学習)	医療の質の評価の観点(構造・過程・結果)を概説できる。	医療の質の改善を考えることの重要性を説明できる。
II コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	1	16	患者・家族・医療チームメンバー・住民・社会と良好な関係を構築できる。	医療におけるコミュニケーションの重要性を説明できる。	地域社会や周囲とのコミュニケーションができる。
	2	17	患者・家族・医療チームメンバー・住民・社会の心理・生活・文化的背景を適切に把握するための、支持的・共感的なコミュニケーションをとることができる。	患者・家族の情報を適切に把握するために、支持的・共感的なコミュニケーションスキルを観察下で呈示(デモンストレーション)できる。	良好なコミュニケーションに必要なスキルを列挙し、特定の状況で呈示できる。
	3	18	効果的な協働のために、相手に応じて適切な方法で情報の収集・集約・伝達を行うことができる。	適切な方法で収集・集約・伝達した情報を用いて協働できる。	適切な方法で情報の収集・集約・伝達を行うための基本的な技能・態度を身につける。
	4	19	患者、家族と情報に基づいた意思決定の共有(インフォームド・シェアード・ディジション・メイキング)ができる。	患者、家族と情報に基づいた意思決定の共有を模擬患者に対して適切に実施できる。	患者・家族の疾病と治療に対する捉え方に配慮した意思決定の重要性について説明できる。
	5	20	個人とだけでなく、集団、社会との適切なコミュニケーションをとることができる。	個人とだけでなく、集団、社会とコミュニケーションをとることを意識した行動ができる。	集団、社会とのコミュニケーションをとることの意義を説明できる。
	6	21	様々なICT(Information and Communication Technology)を適切に選択し、活用できる。	病態・検査・治療をICTを活用しながら説明できる。	医学・医療におけるICTの重要性について説明できる。

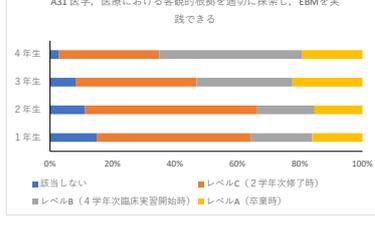
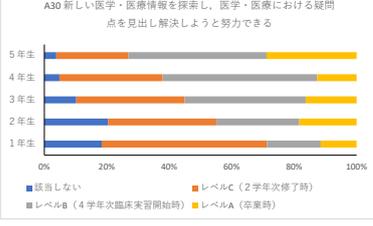
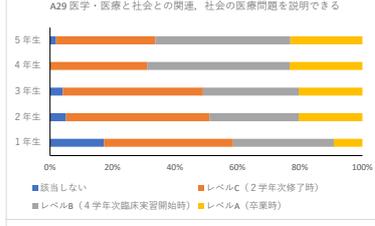
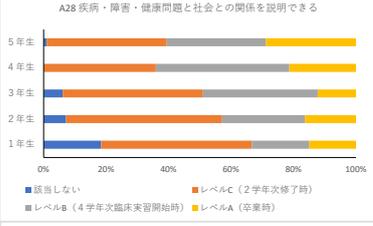
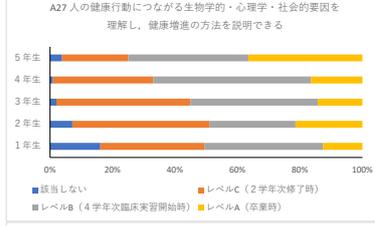
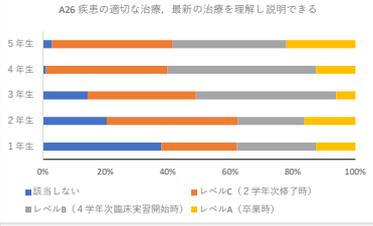
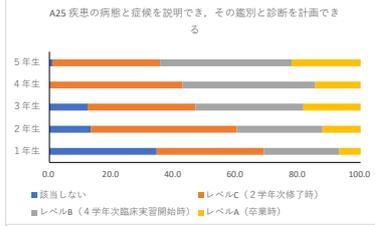
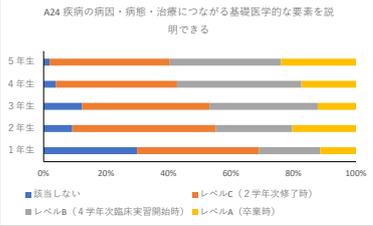
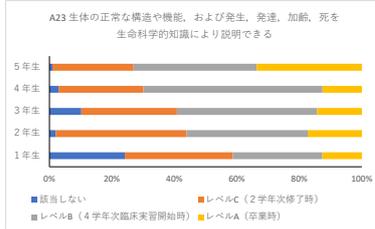
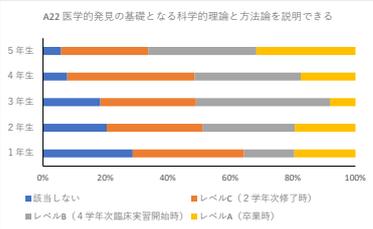
		a	b	c	
		レベルA(卒業時)	レベルB(4学年次臨床実習開始時)	レベルC(2学年次修了時)	
III 医学知識と科学的探究心	1	22	医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。	医学研究に用いられる基本的な研究方法を説明できる。	医学研究の科学的理論と方法論の概略を説明できる。
	2	23	生体の正常な構造や機能、および発生、発達、加齢、死を生命科学的知識により説明できる。	生体の正常な構造や機能、および発生、発達、加齢、死について概説できる。	生体の正常な構造や機能について概説できる。
	3	24	疾病の病因・病態・治療につながる基礎医学的な要素を説明できる。	疾病の病因・病態・治療とその裏付けとなる基礎医学との関連を考察して説明することができる。	基礎医学で学修した疾患について、疾病の病因・病態・治療とその裏付けとなる基礎医学との関連を説明することができる。
	4	25	疾患の病態と症候を説明でき、その鑑別と診断を計画できる。	疾患の概略について説明でき、鑑別を要する疾患を列挙し、病態や診断基準等と照らし合わせて考察できる。	疾患の基本的事項について理解し、正常との違いを説明することができる。
	5	26	疾患の適切な治療、最新の治療を理解し説明できる。	疾患ごとの、基本的な治療を説明することができる。	頻度の高い疾患の原因、症状、予後の概略を説明することができる。
	6	27	人の健康行動につながる生物学的・心理学・社会的要因を理解し、健康増進の方法を説明できる。	健康増進に関わる生物学的・心理的・社会的要因を説明できる。	予防医学の重要性を理解できる。
	7	28	疾病・障害・健康問題と社会との関係を説明できる。	疾病・障害・健康問題と社会との関係が存在する病態を列挙できる。	社会における疾病・障害・健康問題を理解し、偏見を持たずに接することができる。
	8	29	医学・医療と社会との関連、社会の医療問題を説明できる。	社会における医師の役割、医学・医療の重要性について説明できる。	自分自身の社会における位置づけ、医学・医療との接点を説明できる。
	9	30	新しい医学・医療情報を探索し、医学・医療における疑問点を見出し解決しようと努力できる。	探索した情報をもとに医学・医療における疑問点を見出すことができる。	ICTを使って新しい医学・医療情報を探索できる。
	10	31	医学、医療における客観的根拠を適切に探索し、EBMを実践できる。	与えられた臨床的疑問について、チェックリストを用いた批判的吟味ができる。	根拠のある情報を選択し、情報源を明示することの重要性を説明できる。
IV 診療技能	1	32	心理・社会的状況を含め患者の病歴を正確に聴取できる。	患者の病歴を聴取する際は心理・社会的状況も含めることの重要性を説明できる。	患者の病歴を聴取する際の注意点を説明できる。
	2	33	身体診察と基本的臨床手技を適切に実施できる。	基本的な身体診察と臨床手技が概ね実施できる。	身体診察と基本的臨床手技の概略を説明できる。
	3	34	診療録をSOAP形式で、客観的、かつ簡潔に記載し、プロブレムリスト、鑑別診断を作成できる。	SOAP形式の診療録の記載方法を理解し、基本的な診療情報を記載することができる。	診療録におけるPOS(Problem Oriented System)の概略を述べることができる。
	4	35	適切な検査を選択し、結果を正しく解釈できる。	主要な疾患について診断に必要な検査を選択し、その感度、特異度を踏まえて、検査結果を正しく解釈することができる。	日常診療でよく用いられる検査の原理や手技の概要を説明できる。
	5	36	時、相手・場所に応じた適切なプレゼンテーションができる。	伝えたい内容を聴く人が理解しやすいようにプレゼンテーションができる。	調べたこと、自分の考えを正確に伝えることができる。
	6	37	患者と家族に対し、エビデンスに基づいて、適切に治療法・予後を説明できる。	聞き手の理解に合わせた「患者・家族への説明」を模擬的に実施できる。	医療面接の役割の一つとしての「患者・家族への説明」について概説できる。
	7	38	感染管理を考慮した診療ができる。	各種感染症の病態、診断法、治療法、予防法を概説できる。	主要な感染症の病原微生物の疫学、病態生理、症候を説明できる。
	8	39	プライマリ・ケア領域の救急対応ができる。	プライマリ・ケア領域の救急対応について説明し、シミュレーションにおいて基本手技を実施できる。	一次救命処置(BLS)ができる。
	9	40	慢性疾患・高齢者・緩和・予防・健康増進・リハビリテーション、介護/ケアの視点から患者ケアの実践ができる。	高齢者、障害者、慢性疾患患者、がん末期患者の介護、緩和ケアの現実を理解できる。	超高齢社会における介護、終末期医療の問題点を指摘することができる。
V 地域社会へ貢献	1	41	地域社会における疾病予防、健康の維持・増進のための医師の役割を説明できる。	衛生学・公衆衛生学の観点から、地域社会における疾病予防、健康の維持・増進の重要性を説明できる。	疾病予防、健康の維持・増進の重要性を説明できる。
	2	42	地域の医療状況、社会経済的状況を含めた特殊性や課題について説明できる。	地域の医療と社会経済の現状について概略を説明できる。	医療と社会経済の関係性について説明できる。
	3	43	医療計画、地域医療構想について説明できる。	わが国における医療計画として、地域医療の効率化、体系化の意義を概説できる。(医療法第30条)	医療行政の重要性を説明できる。
	4	44	住民啓発活動や一次医療の診療補助により地域医療に参加ができる。	地域医療における住民啓発活動や一次診療の具体的な内容を説明できる。	地域医療における住民啓発活動の存在や一次診療の意義を説明できる。
	5	45	社会保障制度を理解し、地域包括ケアの実践に参加できる。	高齢者社会における地域の包括的な支援・サービス提供体制の構築にかかわる取り組みを説明できる。	わが国の社会保障制度(社会保険、社会福祉、公的扶助、保健医療・公衆衛生)の概略を説明できる。
	6	46	災害における被災者や、社会的弱者の現状について理解し、医療に関わるボランティア活動に参加できる。	災害における被災者や、社会的弱者の現状を認識し、医療に関わるボランティア活動の重要性を説明できる。	災害時における被災地への支援の実例を述べることができる。
	7	47	国際社会の健康問題を把握、説明することができ、可能な範囲でその問題に対処できる。	我が国のみならずアメリカ、ヨーロッパ諸国、アジア諸国のヘルスケアの様々なあり方について概説できる。	海外諸国の経済状況とヘルスケアの多様なあり方に関心を示すことができる。



## II. コミュニケーション

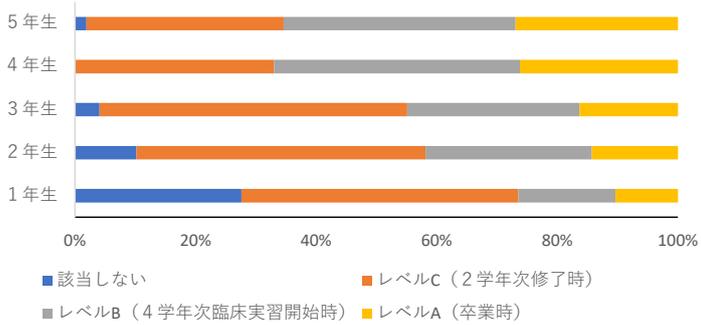


## III. 医学の知識と科学的探究心

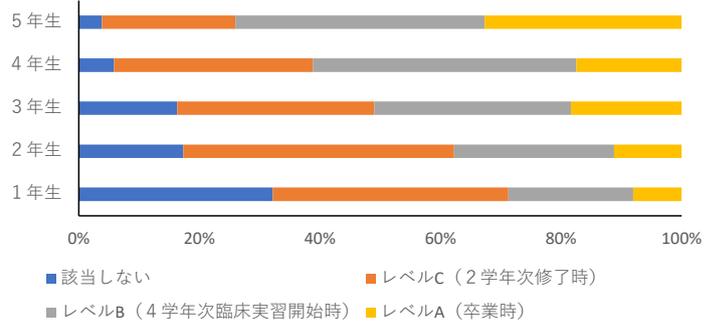


## V.地域社会への貢献

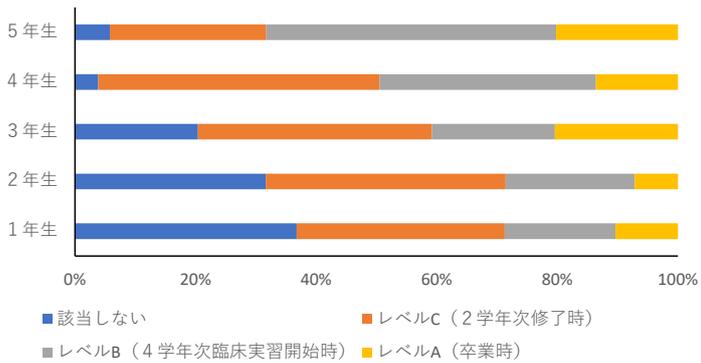
A41 地域社会における疾病予防、健康の維持・増進のための医師の役割を説明できる



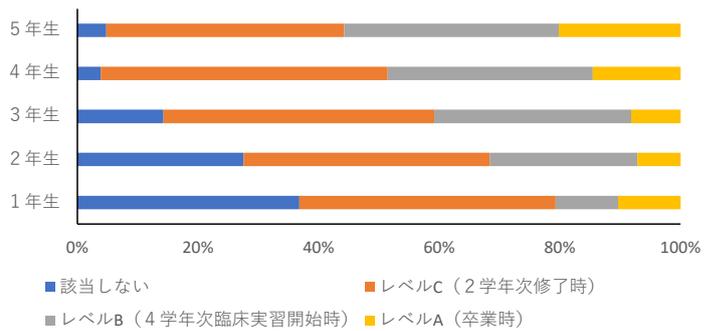
A42 地域の医療状況、社会経済的状況を含めた特殊性や課題について説明できる



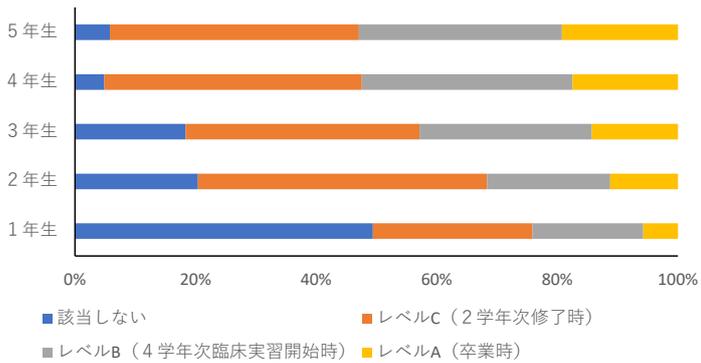
A43 医療計画、地域医療構想について説明できる



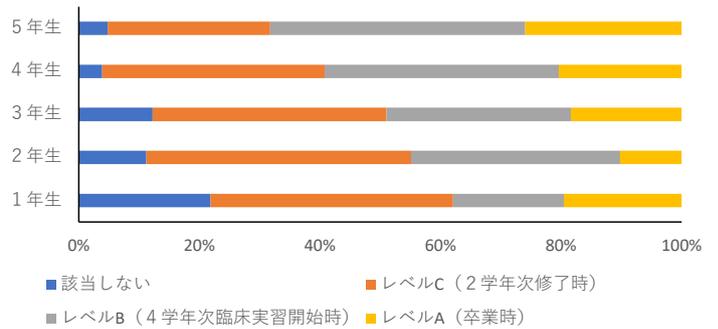
A44 住民啓発活動や一次医療の診療補助により地域医療に参加ができる



A45 社会保障制度を理解し、地域包括ケアの実践に参加できる



A46 災害における被災者や、社会的弱者の現状について理解し、医療に関わるボランティア活動に参加できる



A47 国際社会の健康問題を把握、説明することができ、可能な範囲でその問題に対処できる

